

■ 戦略研100th ミーティング議事録

日 時：2014年10月4日(土) 14:00-17:00

場 所：東京／竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「100回記念ディスカッション！ 2024年の日本を戦略的に予測する」

情報提供者：戦略経営研究会運営委員

参加者：参加者 17人（発表者を含まない）

（銀行員、財務コンサルタント、金融経済アナリスト、会社経営、会社員、
公共経営コンサルタント、NPO 法人理事長、税理士、行政書士、司法書士等）

目次：

0. 戦略の変遷と戦略的視点とは？

1. 2024年にはみんなの働き方がどう変わっているか？
2. M&Aの推移から見て、日本の産業構造はどう変わっているか？
3. 地球温暖化は日本の農業にどのような影響を与えるか？
4. 日米中を人口的にマクロ比較するとどうなっているか？

情報提供：

0. 戦略の変遷と戦略的視点とは？（茂木）

- ・軍事戦略／クラウゼヴィッツとジョミニ ～ダイナミズムと普遍性、アートとサイエンス～
- ・経営戦略／テイラーとメイヨー ～定量分析と人の意思・行動～
→アンゾフ「戦略経営論」
外部環境への順応だけでなく内部要素の重視を行っています
戦略作成だけでなく実行とコントロールの重視を行っています
社外環境のハード面（技術・経済など）だけでなく社会・政治面の重視を行っています
- ・戦略的視点／虫の目、鳥の目 ～メタ認識と時間的余裕～

1. 2024年にはみんなの働き方がどう変わっているか？（新田）

- ・情報技術の進化によって、働く場所、仕事の内容が変わっています（たとえば、オフィスレイアウト）
→2024年には家やスモールオフィスで仕事ができるようになります。通勤時間がゼロになり、勤務時間が柔軟になります。
- ・グローバル化によって、企業規模の変化によって、誰と一緒に働くかが変わります
→世界中で一緒に働くことができるようになります。最適な人材を世界中から探してこられるかが、企業が競争に勝つためのポイントになります。

2. 対外・対内M&Aの推移と、日本の国際収支統計等の推移に関連はあるか？（古村）

- ・上記の関連について検証を立てて、調べてみたが関連は認められませんでした。
- ・対外・対内M&Aの件数推移ですが、2008年9月のリーマンショックにてぐっと下がりましたが、近年、持ち直しています。
- ・日本の国際収支統計推移ですが、2011年以降、黒字は急激に減少しています。その原因として、エネルギー輸入価格の高騰が挙げられます。
しかし、海外からの配当・利子（第一次所得収支）は安定して推移しています。日本は海外からの配当・利子で食っているともいえます。
日本の対外資産残高推移ですが、純資産残高は1996年から2013年にかけてほぼ3倍になっています。
証券投資が配当・利子を生んでいます。M&A＝直接投資は少ないです。

3. 地球温暖化は日本の農業にどのような影響を与えるか？（植村）

- ・地球温暖化の影響は実感するところです。しかし、農産物への影響はよくわかりません。もちろん直ちに影響が出るわけではありません。
- ・高緯度での気温上昇し、海水温も上昇しています。豪雨の地域や少雨の地域が増えています。雪が降らなくなっています。台風も強大化しています。つまり、渇水のリスクと、大雨災害の深刻化と極端になっています。
- ・日本においては、植物の生息域が北上しています。
6年前、青森県の農業青年団とお話しをしました。近々、青森でリンゴが採れなくなると警戒されていました。このため、次の特産物を検討してなくてはならないとされていました。
- ・静岡県に新規就農された方がいました。静岡は台風あまり来ないということでここぞと選びました。しかし、台風が連続して3回も来ました。ハウスが倒壊したそうです。
- ・3年前、お米農家とお話しをしました。稲刈り直前に集中豪雨がありました。隣地の稲刈りができなくなったそうです。
- ・2007年、農水省の調査では、お米の高温障害（変色）が宮城県の登米市で発生しました。また、お米の害虫であるカメムシが大量発生しました。兵庫県でも酒米に高温の影響が出ています。
- ・お米は世界的にも主要な食料ですが、世界的にも減収しています。
- ・温暖化に合わせて品種改良をしても、それですぐに農家がうまく栽培できるわけではありません。品種により栽培の技術が異なるからです。

4. 日米中を人口的にマクロ比較するとどうなっているか？（茂木）

- ・今後10年間の日米中、各国の人口トレンド比較。全体数としては日本のみ人口が減少しま

す。また、日本では65歳以上人口の割合が25.1%から30.1%となります。米国では16.6%から20.1%となります。

- 日本の特性。今後10年間で全国の東京を含むすべての地域で人口が減少します。
- 米国の特性。今後中西部などの地域で人口が減少します。沿岸大都市への人口集中が進みます。沿岸大都市にヒスパニック系が集中しています。2060年にはヒスパニック系の人口が白人の人口を超えるとされています。政治への影響が大きいと予測されます。
- 中国の特性。人口ボーナスは今後10年間は続くと予測されます。また、イスラム系の人口は2400万人であり、中国全体への影響は軽微と予測されます。
- 上記からの日本の立ち位置。人口トレンドだけを見れば、米国にとり日本よりも中国が魅力ある市場と見ることができます。

以上